

## 1 ゼンコ

52

## 2 基原、生薬の性状及び確認試験の項を次のように改める。

3 本品は1) *Peucedanum praeruptorum* Dunnの根(白花ゼンコ)又は2)ノダケ*Angelica decursiva* Franchet et Savatier  
4 (*Peucedanum decursivum* Maximowicz) (*Umbelliferae*)の  
5 根(紫花ゼンコ)である。

## 7 生薬の性状

8 1)白花ゼンコ 本品は細長い倒円錐形～円柱形を呈し、下部  
9 はときに二股になる。長さ3～15 cm、根頭部の径は0.8～  
10 1.8 cmである。外面は淡褐色～暗褐色を呈し、根頭部には  
11 多数の輪節状のしわがあり、毛状を呈する葉柄の残基を付け  
12 るものもある。根にはやや深い縦じわ及び側根を切除した跡  
13 がある。横切面は淡褐色～類白色を呈する。質はもろい。

14 本品は特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

15 本品の横切片を鏡検(5.01)するとき、最外層はコルク層  
16 からなり、一部のコルク細胞は内側の接線壁が肥厚する。そ  
17 の内側には厚角組織がある。皮部には多数の油道が散在し、  
18 空隙が認められる。師部の先端部には師部繊維が見られるこ  
19 とがある。木部には道管が認められ、油道が散在する。柔組  
20 織中に認められるでんぷん粒は2～10数個の複粒である。

21 2)紫花ゼンコ 本品は1)と同様であるが、根頭部に毛状を呈  
22 する葉柄の残基をつけない。

23 本品の横切片を鏡検(5.01)するとき、本品は1)と同様で  
24 あるが、コルク細胞の細胞壁は肥厚せず、師部の先端部には  
25 師部繊維を認めない。また、木部中には油道が認められない。

## 26 確認試験

27 1)白花ゼンコ 本品の粉末1 gにメタノール10 mLを加え、  
28 10分間振り混ぜた後、遠心分離し、上澄液を試料溶液とす  
29 る。別に薄層クロマトグラフィー用(±)-プラエルプトリン  
30 A 1 mgをメタノール1 mLに溶かして標準溶液とする。これ  
31 らの液につき、薄層クロマトグラフィー(2.03)により試験  
32 を行う。試料溶液及び標準溶液10 µLずつを薄層クロマトグ  
33 ラフィー用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットす  
34 る。次にジエチルエーテル/ヘキサン混液(3:1)を展開溶媒  
35 として約7 cm展開した後、薄層板を風乾する。これに紫外  
36 線(主波長365 nm)を照射するとき、試料溶液から得た数個  
37 のスポットのうち1個のスポットは、標準溶液から得た蛍光  
38 を発するスポットと色調及びR値が等しい。

39 2)紫花ゼンコ 本品の粉末1 gにメタノール10 mLを加え、  
40 10分間振り混ぜた後、遠心分離し、上澄液を試料溶液とす  
41 る。別に薄層クロマトグラフィー用ノダケニン1 mgをメタ  
42 ノール1 mLに溶かして標準溶液とする。これらの液につき、  
43 薄層クロマトグラフィー(2.03)により試験を行う。試料溶  
44 液及び標準溶液10 µLずつを薄層クロマトグラフィー用シリ  
45 カゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次に酢酸エ  
46 チル/メタノール/水混液(12:2:1)を展開溶媒として約7  
47 cm展開した後、薄層板を風乾する。これに紫外線(主波長  
48 365 nm)を照射するとき、試料溶液から得た数個のスポット  
49 のうち1個のスポットは、標準溶液から得た蛍光を発するス  
50 ポットと色調及びR値が等しい。

51